

大腸の鋸歯状腺腫という概念が、Longacre と Fenoglio-Preiser (1990 年) により提唱されてから 17 年、本誌 (33 巻 6 号, 1998 年) で「鋸歯状腺腫 (serrated adenoma) とその周辺」というタイトルにて特集されてから 9 年が経過しました。以来、鋸歯状腺腫構造を示す大腸のポリープは病理組織学的に鋸歯状腺腫 (SA: 腫瘍) と過形成性ポリープ (HP: 非腫瘍) に大別されてきました。しかし、時に両者の鑑別に難渋する病変に遭遇することも事実で、このような病変に対して、日本の病理医は atypical HP, immature HP, HP with young epithelium, large HP などと呼んで診断してきたのが現状だろうと思います。

最近、欧米でこのような病変に対し無茎性鋸歯状ポリープ (sessile serrated polyp; SSP) / 無茎性鋸歯状腺腫 (SSA) なる概念が提唱され注目されています。加えて、HP と SA には microsatellite instability (MSI) という共通した遺伝子異常が存在すること、両者と MSI が関与する非遺伝性大腸癌 (MSI 大腸癌) との連続的な組織発生・発育進展 (serrated neoplastic pathway) の可能性が高いこと、HP にも病理組織形態学的にいくつかの亜型があり、その一部が MSI 大腸癌の前癌病変であろうと推定されること、などが明らかにされています。このような最近の疾患概念や遺伝子学的研究の著しい進歩を背景に欧米では、鋸歯状腺腫構造を示すポリープを腫瘍・非腫瘍と 2 大カテゴリ化するのではな

く、それらを一括して serrated polyp とし、その中に病理組織学的特徴からいくつかの亜型を置く組織分類が提唱されています。しかし、承知のごとくすべての日本の病理医が欧米の診断基準に従っているわけではなく、またそれらの病理医間にも大腸鋸歯状病変の分類・診断基準に差があるのが現状です。

本号の企画のねらいは、病理学的立場から ① HP, SA, 絨毛状腺腫などの鑑別診断を含めた大腸鋸歯状病変の診断基準、② 鋸歯状病変の組織発生および発育進展 (癌化を中心に)、臨床的立場から ③ 内視鏡的な大腸鋸歯状病変 (HP, SA, 腺癌) の鑑別診断法と診断能、および ④ 大腸鋸歯状病変の臨床的取り扱い、などにつき現在の考え方や問題点を明確にすることでありま。幸いに、この分野のエキスパートから原稿をいただいたこともあり、いずれも秀でた力作ばかりで読み応えがあります。ぜひ御一読を薦めたく存じます。特に中村眞一先生の組織発生に関する論文は、着想から論文形式・画像写真まですべて秀逸で、大変勉強になります。上述のごとく、いずれの先生方からも優れた論文をいただきましたが、言うまでもなく大腸鋸歯状病変の問題点がすべて解決されたわけではありません。本号を契機に大腸鋸歯状病変の疾患概念の確立、病理診断基準の統一化が進み、かつその生物学的特性に関する究明がよりいっそう前進することを期待したいと思います。

胃と腸

4 月号 (第 42 巻・第 5 号) 予 告

発売予定
定 価

4 月 25 日
2,625 円

主題／炎症性腸疾患 (IBD) の上部消化管病変

序 説	炎症性腸疾患 (IBD) の上部消化管病変	九州大学大学院・病態機能内科学	飯 田 三 雄
主 題	Crohn 病の胃病変の病理組織学的特徴	九州大学大学院・形態機能病理学	八尾 隆史・他
	潰瘍性大腸炎の上部消化管病変の病理学的特徴	新潟大学大学院・分子・診断病理学	味岡 洋一・他
	Crohn 病における食道病変	社会保険中央総合病院・内科	浜田 勉・他
	Crohn 病の上部消化管病変の臨床と経過	旭川医科大学・消化器・血液腫瘍制御内科学	渡 二郎・他
	Crohn 病の上部消化管病変の臨床的検討	藤田保健衛生大学・消化管内科	平田 一郎・他
	潰瘍性大腸炎の上部消化管病変の臨床と経過	兵庫医科大学・内科学	堀 和敏・他
	潰瘍性大腸炎の上部消化管病変の臨床と経過	福岡大学筑紫病院・消化器科	久部 高司・他
	Crohn 病の胃・十二指腸狭窄性病変に対する内視鏡的拡張術の有用性	福岡大学筑紫病院・消化器科	松井 敏幸・他
	Crohn 病の胃・十二指腸病変に対する外科治療	横浜市民病院・外科	杉田 昭・他
主題症例	十二指腸病変を合併した潰瘍性大腸炎の 2 例	九州大学大学院・病態機能内科学	藤澤 律子・他
	小腸造影検査が有用であった小腸型 Crohn 病の 1 例	秋田赤十字病院・消化器病センター	山野 泰徳・他
	竹の節状外観を呈した Crohn 病の 1 例	久留米大学・消化器内科	桑木光太郎・他
	上部消化管内視鏡にて「竹の節状外観」を呈した全大腸炎型潰瘍性大腸炎の 1 例	藤田保健衛生大学・消化管内科	長坂 光夫・他

胃と腸 (第 42 巻 第 3 号)

編 集 早期胃癌研究会

発 行 株式会社 医学書院

代 表 者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 5-24-3

☎ 本誌編集室直通 (03) 3817-5714

FAX (03) 3815-7802 / 3815-7982

E-mail: itc @ igaku-shoin.co.jp

http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/itochou/

2007 年 3 月 25 日発行 (毎月 25 日発行)

1 部定価 2,625 円 (本体 2,500 円 + 税 5%)

2007 年年ざめ予約講読料 36,410 円

(増刊号 5,985 円を含む 13 冊) (送料弊社負担)

☎ 販売部直通 (03) 3817-5659

振替口座 00170-9-96693

印 刷 所 永和印刷 (株) ☎ (03) 3813-5001

広告取扱 文 栄 社 ☎ (03) 3814-8541

・早期胃癌研究会は、当研究会、早期胃癌検診協会およびエーザイ株式会社の三者の共催で行われている。

・Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2007, Printed in Japan.

・本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権 (送信可能化権を含む) は (株) 医学書院が保有します。

・JICLS < (株) 日本著作出版権管理システム委託出版物 >

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつと事前に (株) 日本著作出版権管理システム (電話 03-3817-5670, FAX 03-3815-8199) の許諾を得てください。

・医学書院ホームページ (インターネット) <http://www.igaku-shoin.co.jp>

(担当) 今田・山中・天野・小松原